

# グローバル社会 ニーズ拡大

## 英会話学校 起業増える

県内

県内で英会話学校の起業が増えている。人、モノ、金、情報が世界を瞬時に駆け巡るグローバル社会を生き抜くには趣味としての英語ではなく、世界共通語としての英語が必須との認識がビジネスマンや保護者の間で拡大していることが背景にある。大手と異なる小回りの利いた指導ノウハウでニーズに応えている。

経済産業省の統計によると、英会話を含む外国語会話教室の事業所は二〇〇二年度から〇四年度の三年間で約一割増え、受講生も増加傾向にある。英語講師や通訳・翻訳の活

動が長く、英語教育の著書も多い福島県民会館が静岡市内で英会話学校「ENGLISH BOX」を設立したのは二〇〇一年。文化都市として英会話人口が多いまちと判

断、設立を決めた。

受講生は既に九十人。多いのはビジネスマンや医師。「貿易部門への異動で英会話のレベルアップが必要になった」という商社マンなど海外赴任や海外出張、国際会議で「英語は必須」と痛感している層が目立つ。

これらニーズに対応するため、個別レッスンを中心とする福島氏は「真剣に英語を身につけたいという人

## 指導せか利回り小 個別レッスンを遊ぶ



グローバル社会で英語は必須として英会話を学ぶビジネスマンなどが増えている＝静岡市内

が奮発に増えている」と手応えを語る。帰国子女で、英語講師もしていた伊藤ひさ乃さん(三七)は今年四月、浜松市内(旧浜北市内)で英会話学校「ESL

College」を開校し、社長に就任した。海外の子供が英語を学ぶのと同じプロセスで英会話を教えることが特色。受講生は八十五人に達し、半教近くが幼稚園児という。

やはり英語講師をしていた嶋原さん(三三)は昨年八月、焼津市内で英会話学校「はっぴーEnglish」を設立。保護者に子供の遊ぶ喜びなどを確認し、英会話とともに楽しい時間を過ごせるようにする細かな配慮が好評で、受講生は一歳から小学六年生まで六十人を抱えるようになった。

英会話学校は民間大手も拡大路線で、競争は激化している。伊藤さんは「今後はより高い英語力が求められる。英会話学校や学校教育でも既存の指導ノウハウを打破しなければ、世界に通用するレベルに達するまで引き上げるのは難しい」と指摘。福島氏も「受講希望者の本物志向にこれだけ応えられるかが勝負になる」と語った。